

大幅なコストカットを実現！ 倉庫運用見直しによる物流改革

2026年7月28日

コスト削減

倉庫運用



「物流を改革しよう！」そう言われたとき、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。

．．．

皆さんが思い浮かべたもの、それは「コスト」ではないでしょうか。

では、「コスト」とは何を指すでしょう。

物流業界では、トラックの燃料代や高速道路料金などの輸送費用、倉庫賃料や荷役にかかる人件費などの倉庫の運用費用やシステムの保守費用など…。

物流における「コスト」は、ひとつではありません。

今回は「輸送費用」と「倉庫の運用費用」に着目し、年間5,000万円以上のコスト削減を実現した、改善事例をご紹介します。

目次

- 1, まずは、ゴールを決めよう
- 2, 倉庫集約にむけたステップ
- 3, ゴールの先の課題解決へ
- 4, まとめ

1, まずは、ゴールを決めよう

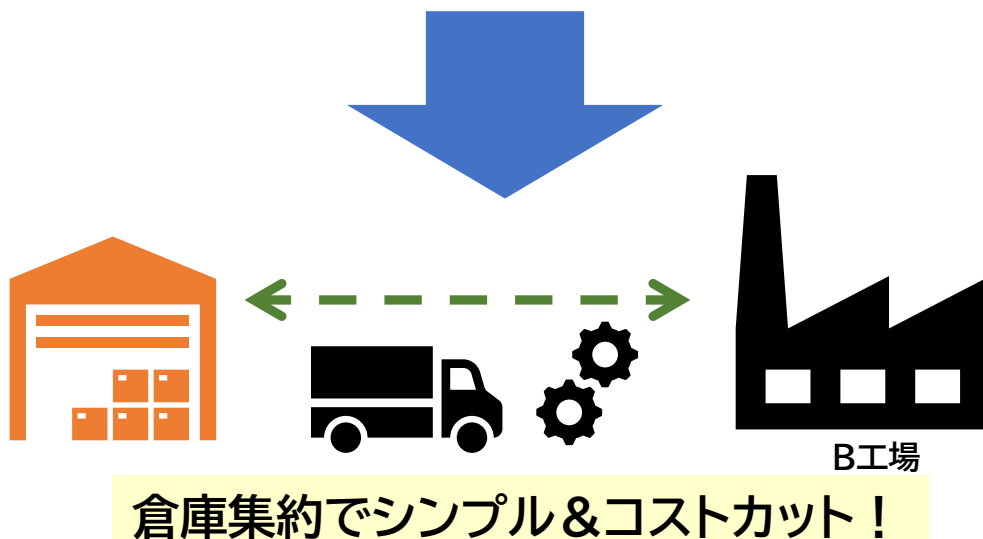
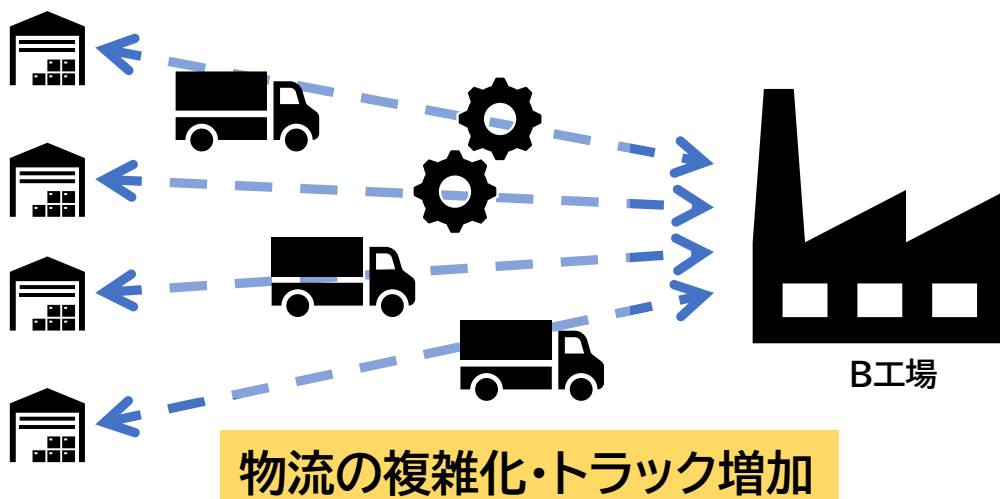
当社のお客様であるA社のB工場では、物流コストの増加が課題となっており、物流体制の見直しが求められていました。

当時、この工場では、部品の種類ごとに別々の倉庫に分けて保管をしていました。

そのため、部品の種類が増えるごとに倉庫が増え、モノの流れが複雑化。あわせてトラック台数も増加していたのです。

一方で、工場内の倉庫だけでは保管しきれず、部品倉庫として工場敷地から離れた外部倉庫を使用することは避けられません。

そこで、解決策としてあげられたのが、それぞれの倉庫が担っていた機能を集約した新たな倉庫を立ち上げ、部品の種類ごとに分かれていた外部倉庫を1つにまとめるという案でした。



2, 倉庫集約にむけたステップ

定めたゴールに一気にいきつくことはあり得ません。目標を達成するには、段階的に課題を解決していくことが重要です。ここでは、倉庫集約を実現する際のステップをご紹介します。

Step.1 まずは現状把握

最初のステップは、現在の倉庫内作業を分析し、可視化することです。

「誰が」「何をどうする」「どのような流れで」という要素を明確し、業務フローを作成することで、現在どんな運用をしているのかが一目で分かるようになります。

※業務フロー作成についてのコラムは[こちら](#)からどうぞ！

Step.2 新倉庫運用設計

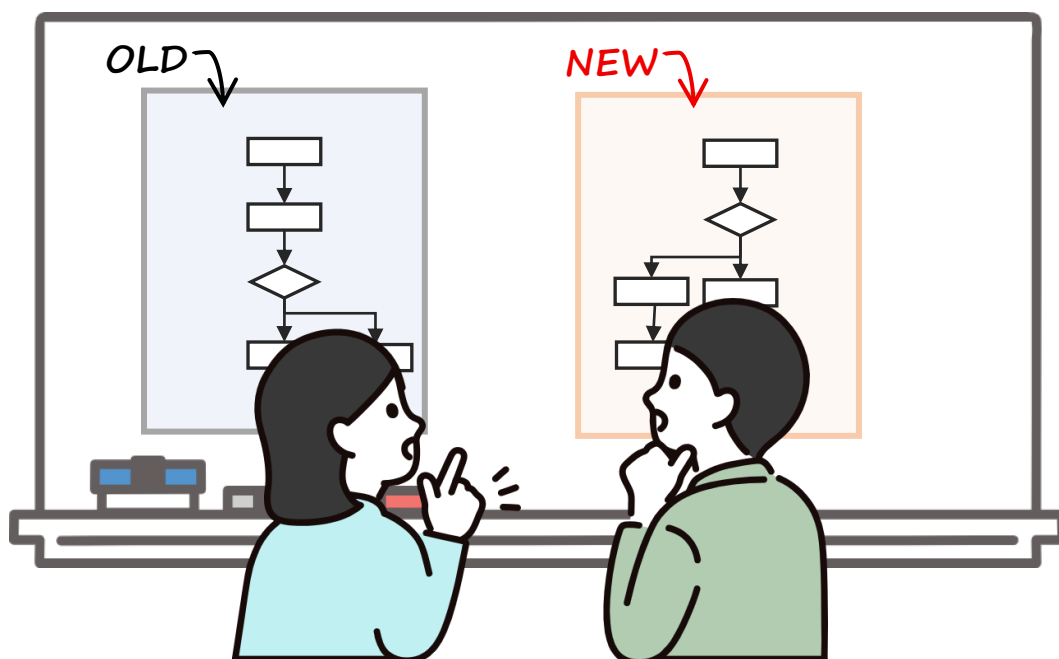
次に、新倉庫の運用を決めていきます。

倉庫を移管するということは、単に場所が変わるだけではないのです。

- ◆どんな入出荷作業を行っていたか
- ◆どんなシステムを使って、情報をやり取りしていたか
- ◆どんな作業スケジュールを立てていたか

・・・など。倉庫環境が変わることによって新たな課題も見えてきます。

新倉庫の運用設計にも、Step.1で使った手法が役立ちます。従来の倉庫運用と新しく設計した倉庫運用を見比べて、倉庫集約計画を具体化していきます。

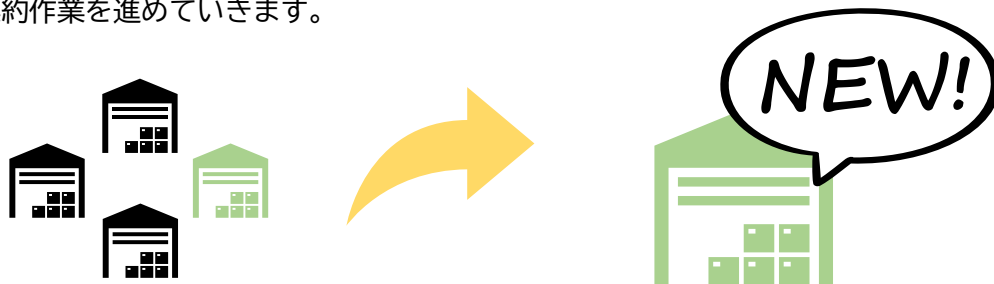


Step.3 いざ、新倉庫へ！

新しい倉庫を立ち上げたからと言って、すぐにすべての倉庫を集約することは現実的ではありません。

一度に移管を行うと、現場の混乱や供給遅延につながる可能性があります。

そのため、まずは複数ある倉庫のうちの一部を集約対象とし、段階を踏んで倉庫集約作業を進めていきます。



Step.4 効果検証を忘れずに

倉庫集約作業が終わったら、そこで終わり・・・ではいけません。

新運用での物流コストを算出し、従来と比較することで効果の検証を行います。

また、コスト面だけでなく、作業効率や品質面にも目を向けることで成果をより明確にすることができます。

例えば・・・

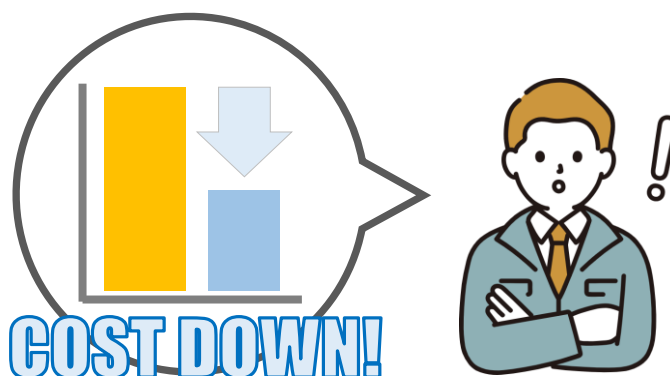
◆流れ線図を用いた工程分析でレイアウトの無駄が削減できたかを確認

◆ストップウォッチ法を用いて新運用の標準時間を設定

などなど・・・

※IE手法については[こちら](#)でもご紹介しています！

こうした段階的な取組が倉庫集約成功のカギとなり、外部倉庫賃料や納品トラックの台数などが削減され、年間5,000万円以上のコスト削減につながりました。



3, ゴールの先の課題解決へ

物流コストの削減は「倉庫集約」というコンセプトのもと、実現することができました。

さて、ここで最初の言葉を思い出してください。

「物流を改革しよう！」

はたして、「物流改革」という視点で見た時に、私たちは本当に目標を達成できているでしょうか。

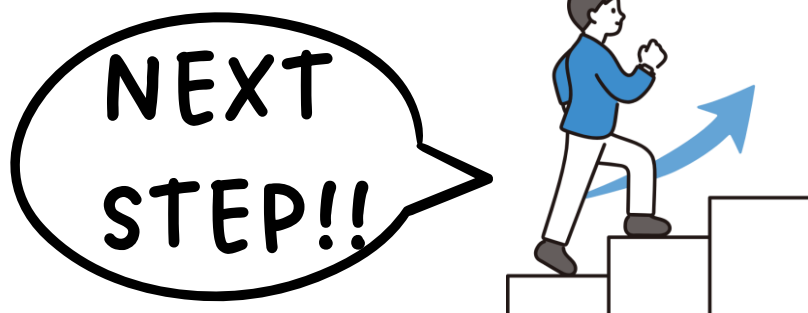
課題を解決した先には新たな課題が待っています。

今回ご紹介したB工場でも課題が待っていました。工場内の道路幅が狭く、トラック台数が減少しても依然渋滞が発生していたのです。

そこで、外部倉庫の集約により生まれたトラックヤード(貨物積み下ろしエリア)の余裕スペースを活用し、工場内の道路幅を広げる新たな改善計画が始まりました。

重要なのは、ひとつの成果で終わらず、次の改善につなげ続けることです。

物流改革に終わりはありません。



4, まとめ

物流改革は「新しい仕組みを入れること」だけでは実現できません。

大切なのは、現場の課題を整理し、目標に向かって一步步改善を積み重ねることです。

今回の事例では、外部倉庫の集約によって物流コストを大幅に削減できました。

しかし、その成果は単なる「倉庫集約」ではなく、モノの流れ・運用・役割を見直し、段階的に最適化を進めた結果です。

「物流コストを見直したい」

「倉庫の運用を改善したい」

「現場改善を進めたいが、何から始めればよいかわからない」

そのようなお悩みがございましたら、ぜひご相談ください。

当社では、現状分析から課題整理、改善提案、運用定着まで、一貫して支援しています。

＼物流のお悩み、MDロジスにお任せください／



お問い合わせは[こちら](#)